◎中朝関係の実相を探る

※中朝関係を見る視角
▼中朝関係は歴史的伝統を持った特殊な関係であり、その伝統的友好関係の基本に変化はない。
▽中朝両国の共存関係は堅固でお互いが必要としており、一時的な変化はあっても基本的な枠組みは堅持されている。
▽中国も北朝鮮もお互いを必要とする共存関係は続いているが、建前とは別の内実関係に変化が生じている。
▽中朝関係のこれまでの「唇歯の関係」「血盟関係」に本質的変化が生じており、「特殊関係」から「普通の関係」に移行しつつある。
▼中朝関係は、もはや「特殊関係」ではなく「普通の隣国関係」である。

※中朝関係の歩み
▽1948 年 9 月 9 日　朝鮮民主主義人民共和国建国
▽1949 年 10 月 1 日　中華人民共和国建国
▽1949 年 10 月 6 日　中国と北朝鮮が国交樹立
▽朝鮮戦争（1950 年 6 月～53 年 7 月）、中国では「抗美援朝」戦争
　　「唇歯（しんし）の関係」「血盟関係」
▽韓国で朴正熙少将による軍事一クーデター（1961・5・16）
▽金日成ソ連訪問（1961・6・29～7・10）
　1961 年 7 月 6 日に「ソ朝友好協力援助条約」
▽金日成中国訪問（1961・7・10～15）
　1961 年 7 月 11 日「中朝友好協力相互援助条約」
▽中ソ対立
▽中国の文化大革命（1966～77）
▽ニクソン訪中（1972・2）→米中接近
▽中国の改革開放路線（1978～）
▽天安門事件（1989・6）
▽中韓国交正常化（1992・8・24）
▽金日成死亡（1994・7）
▽中朝関係の修復
　○1999・6　金永南外相の訪中
　○2000・5　金正日氏の訪中
　○2001・9　江沢民総書記訪朝「継承伝統、面向未来、睦隣友好、加強合作」（伝統を継承し、未来を志向し、隣国と仲良くして友好的であり、協力を強化する）の十六字方針。
▽金正日総書記健康悪化（2008・８）
▽金正日総書記の後継準備
　○党の再建→第 3 回党代表者会（2010・9）
　○中ロとの関係強化

※金正日総書記の訪中

※	1983 年 6 月 1 日～6 月 12 日　　中国を非公式訪問
	胡耀邦中国共産党総書記　鄧小平同顧問、李先念国家主席、趨紫陽首相らと会見 北京、南京、上海など視察
1	第 1 回訪中　2000 年 5 月 29 日～31 日
	○江沢民中国共産党総各紀・国家主席の招きで中国を非公式訪問 ○江沢民総書記と会談。李圃当国人民代表大会（全人代）常務委員長、朱銘基首相、李瑞環 中国人民政治協商会識(政協）全国委主席とそれぞれ会見 ○(6 月 1 日午後 7 時の朝鮮中央放送と平壌放送が訪中の事実を公表。中国側も中国共産党 中央対外連絡部報道官が発表） ※同行者＝越明録、金永春、金国泰、金容淳、金養建
2	第 2 回訪中　2001 年 1 月 15 日～20 日
	○江沢民中国共産党総書記・国家主席の招きで中国を非公式訪問 ○江沢民総書記と北京で会談。江総書記主催の歓迎宴に出席。これに先立ち、上海市を訪問。 ○(1 月 20 日午後 10 時の朝鮮中央放送と平壌放送が訪中の事実を初公表。中国側も中国共産党中央対外連絡部報道官が発表） ※同行者=金永春、延亨黙、金国泰鄭夏哲、姜錫柱、金養建、朴松鳳、玄哲海、朴在京
3	第 3 回訪中　2004 年 4 月 19 日～21 日
	○胡錦濤中国共産党総書記・国家主席の招きで中国を非公式訪問 ○胡錦滴総書記と会談、胡総書記主催の歓迎宴に出席。江沢民中央軍事委主席、呉邦国全人代常務委員長、温家宝首相、賢慶林政協主席、曾慶紅国家副主席とそれぞれ会見。 天津市を参観。 ○(中国共産党中央対外連絡部報道官が 4 月 21 日午後に訪中の事実を初公表。北朝鮒則は翌 22 日午後 6 時の朝鮮中央放送と平壌放送が報道） ※同行者=金永春、朴奉珠、延亨黙、姜錫柱
4	第 4 回訪中　2006 年 1 月 10 日～18 日
	○胡鑓毒中国共産党緯害配･国家主席の招きで中国を非公式訪問 うち 1 月 11 日～15 日は中部および南部地或訪問 ○胡錦涛総書記と会談、胡総書記主催の歓迎宴に出席。呉邦国全人代常務委員長、温家宝首相とそれぞれ会見 ○(1 月 18 日午後 7 時の朝鮮中央放送と平壌放送が訪中の事実を初公表。中国中央テレビ

	は同 8 時から報道。さらに朝鮮中央放送と平壌放送は翌 19 日午後 8 時に中部・南部訪問について詳報 ※同行者＝朴奉珠、姜錫柱、朴南基、李光浩、虜斗哲
5	第 5 回訪中　2010 年 5 月 3 日～7 日
	○胡錦濤中国共産党総書記･国家主席の招きで中国を非公式訪問 ○北京訪問の前後に遼寧省大連市、天津市、遼寧省瀋陽市を訪問 ○胡錦涛総書記と会談、胡総書記主催の歓迎宴に出席。呉邦国全人代常務委員長、温家宝首相とそれぞれ会見 ○5 月 7 日午前 9 時の朝鮮中央放送と平壌放送が大連･天津訪問の事実を公表。中国中央テレビは日本時間午前 11 時〈北荊時間同 10 時〉から訪中を報道。朝鮮中央放送と平壌放送は翌 8 日午後 1 時に北京・瀋陽訪問の事実を初報道） ※同行者=金永春、崔泰福、金己男、姜錫柱、張成沢、金永日、金養建、朱奎昌、玄哲海、李明秀、金平海、太宗秀
6	第 6 回訪中　2010 年 8 月 26 日～30 日
	○胡錦涛中国共産党総書記・国家主席の招きで中国を非公式訪問　吉林省の吉林市および長春市、黒竜江省ハルビン市を訪問。 ○長春市で胡錦涛総書記と会談、胡総書記主催の歓迎宴に出席 ○8 月 30 日午後 8 時（北京時間同 7 時）の朝鮮中央放送と平壌放送および朝鮮中央テレビ、中国中央テレビが訪問の事実を初報道 ※同行者＝金永春、金己男、太宗秀、姜錫柱、張成沢、洪石亨、金永日、金養建、崔龍海、金平海、朴道春
7	第 7 回訪中　2011 年 5 月 20 日～26 日
	○胡錦涛中国共産党総書記･国家主席の招きで中国を非公式訪問。うち 24 日までは黒竜江省牡丹江市、吉林省長春市、江蘇省揚州市を訪問 ○北京で胡錦涛総書記と会談、胡総書記主催の歓迎宴に出席。宿所を訪問した温家宝首相とも会談 (5 月 26 日午後 8 時（北京時間同 7 時）の朝鮮中央放送と平壌放送および朝鮮中央テレビ、中国中央テレビが訪問の事実を初報道。朝鮮中央放送と平壌放送は翌 27 日午後 0 時 34 分から東北・華東両地域訪問について報道 ※同行者＝金己男、崔泰福、姜錫柱、張成沢、金永日、朴道春　太宗秀、文景徳　朱奎昌、金桂冠、池在龍
8	第 8 回訪中　　2011 年 8 月 25 日～27 日　訪ロの帰途に訪中
	○8 月 20 日～25 日のロシア極東訪問後に訪中 　8 月 25 日夜、中国の内モンゴル自治区ホロンバイン市満州里に到着　王家瑞党中央対外連絡部長　盛光祖鉄道相らが出迎え。 　8 月 26 日　黒竜江省チチハル駅到着、吉林省幹部の出迎え 　黒竜江省で胡錦濤総書記と党中央委の「特別委任」により黒竜江省入りした戴秉国

	国務委員と会見 8月27日　吉林省の通化市に到着、吉林省幹部が出迎え 北朝鮮入りした国境の駅で金正恩党中央軍事委副委員長、金慶喜党政治局員らが出迎え ※同行者　金永春　姜錫柱　金永日（訪ロには同行せず）　金養建、朴道春、太宗秀、朴奉珠、呉秀容　池在龍駐中国大使（訪ロ同行せず）　李基範駐瀋陽総領事（同）

※金正恩時代の中朝関係

▼金正日総書記死亡時は伝統的友好関係を誇示
▼金正恩政権がスタートし直ぐの2013年4月の人工衛星発射（失敗）で摩擦
▼2012年第2回戦略対話での胡錦濤主席が強い核実験反対
▼張成沢党行政部長の訪中（2012年8月）
▼中国共産党第18回党大会、習近平氏を第18期1中全会において党の最高職である総書記と軍の統帥権を握る党中央軍事委員会主席に選出（2012年11月15日）
▼2012年12月12日　北朝鮮、事実上の長距離ミサイルである人工衛星打ち上げ成功
▼国連安保理は2013年1月22日、北朝鮮の衛星発射を、長距離弾道ミサイル技術を利用したもので制裁違反に当たると非難し、制裁強化決議を全会一致で採択、中国もこの決議に賛成。
　※北朝鮮外務省、同年1月23日の声明で、「間違っているということをはっきり知りながらも、それを正す勇気や責任感もなしに誤った行動を繰り返すことこそ、自分をだまし、他人をだます臆病者の卑劣な行為」と米国に追随する「臆病者」と中国やロシアを批判。
　国防委員会も同24日に声明を出し「世界の公正な秩序を打ち立てるうえで先頭に立つべき諸大国まで気を確かに持てず、米国の専横と強健に押さえられ守るべき初歩的な原則もためらうことなく放棄している」と中国を批判。
▼2013年2月12日　　北朝鮮、3回目の核実験
▼国連安保理は3月7日、北朝鮮による3度目の核実験を非難し制裁を大幅に強化する決議案を全会一致で採択。中国は制裁強化決議について米国と協議を続けたが、結局は賛成。
▼第12期全人代第1回会議で習近平氏を国家主席・国家中央軍事委員会主席に選出（2013年3月14日）
▼2013年5月7日　中国、国連制裁だけでなく、独自制裁として中国の大手国有金融機関である中国銀行が北朝鮮の貿易決済銀行「朝鮮貿易銀行」の口座閉鎖措置を取ったと発表
▼5月22日～24日　金正日第1書記の特使として崔龍海軍総政治局長が訪中。習近平総書記は24日に崔龍海軍総政治局長と会談。
▼6月13日　党機関紙「労働新聞」は、金正日総書記が中国を非公式訪問し30周年を記念する論評で「朝鮮労働党と人民は今後も金正日総書記の念願通りに歴史の荒波を克服した朝中友好のきずなをより強化、発展させるために積極的に努力するであろう」と強調。
▼6月15日　金正恩第1書記が同日付で、６０歳の誕生日を迎えた中国の習近平国家主席

に祝電を送り「伝統的な朝中友好を長期的、戦略的な見地から、代を継いで一層発展させることはわが党と人民の確固たる意思だ」と表明。
▼6 月 18 日　習近平国家主席が金正恩第１書記が６０歳の誕生日を迎えた習主席に送った祝電への返信が届き、返信は「私は中朝関係の発展を高度に重視している。中国は北朝鮮と協力して中朝関係を安定的に発展させ、朝鮮半島の平和と安定を共に守っていく」と表明。
▼6 月 18 日～22 日　北朝鮮の金桂冠第１外務次官が訪中。金桂冠第１次官は武大偉・朝鮮半島問題特別代表、張業遂外務次官、楊潔篪国務委員（副首相級）、王毅外相と会談。
※6・27　韓国の朴槿恵大統領が中韓首脳会談などのために訪中（～30）
▼中国、2013 年 7 月 27 日の朝鮮戦争の休戦協定締結 60 周年記念行事に李源潮国家副主席を派遣。（7・25～28）李源潮国家副主席は 7 月 25 日、金永南最高人民会議常任委員長や金正恩第１書記と会談。金正恩第 1 書記は「（北朝鮮は）中国による６カ国協議再開のための努力を支持する。各国と共に努力し、朝鮮半島の平和と安定を維持したい」と言明し、対話姿勢を示した。金正恩第 1 書記は 7 月 27 日の軍事パレードでは終始、李源潮副主席に寄り添い、中朝の伝統的友好関係の修復を内外にアピール。
▼7 月 29 日　金正恩第１書記、平安南道にある朝鮮戦争に参戦した中国人民義勇軍兵士の墓地と旧司令部を訪問
▼9 月 23 日　中国政府、核兵器など大量破壊兵器と関連があるとして、北朝鮮への輸出を禁止する物資や技術のリストを公表し、同日から禁輸措置を取ると発表。中国商務省が公表したリストは 200 ページ以上にわたり、核兵器のほかミサイルや化学兵器、生物兵器の開発に利用される恐れのある物資や技術を記述。
※12・08　朝鮮労働党政治局拡大会議、張成沢党行政部長を一切の職務から解任し、党から除名決定し粛清
※12・12　国家安全保衛部の特別軍事裁判、張成沢氏へ死刑判決、即時執行。
▼2014 年 2 月 17～20 日　中国の劉振民外務次官訪朝、朴宜春外相や李容浩外務次官らと会談。中国外務省の発表では、北朝鮮側は「朝鮮半島非核化は金日成主席、金正日総書記の遺訓であり、北朝鮮の一貫した立場だ」と説明し、6 カ国協議再開へ努力と表明。
▼3 月 17～21 日　中国の武大偉朝鮮半島問題特別代表が訪朝。北朝鮮側と 6 カ国協議再開について協議したが、詳しい協議内容は公表されず。
▼6 月 28 日付朝鮮労働党機関紙「労働新聞」、編集局論説「偉大な思想の力は無限だ」の中で、「革命と建設でいつも自主的な尺度を確固として堅持されてきた大元帥たちの領導があったから、帝国主義者たちのいかなる強権策動も、大国主義者たちの圧迫も、わが人民を屈服させることはできなかった。と述べた。この「大国主義者たち」とは中国、ロシアを指す言葉。
▼7 月 3～4 日　習近平主席、韓国を訪問し、朴槿恵大統領と会談。中国の最高指導者が北朝鮮を訪問せずに韓国を訪問したのは初めて。中朝関係は急速に冷却化。
▼7 月 11 日　中国と北朝鮮が 1961 年に「中朝友好協力相互援助条約」を締結した日であったが、条約締結記念日に宴会が催されたという報道や、親善を訴える論説などはなかった。
▼7 月 13 日　「労働新聞」6 面で「中国党内で不正腐敗行為を行った高位級幹部たち除名」

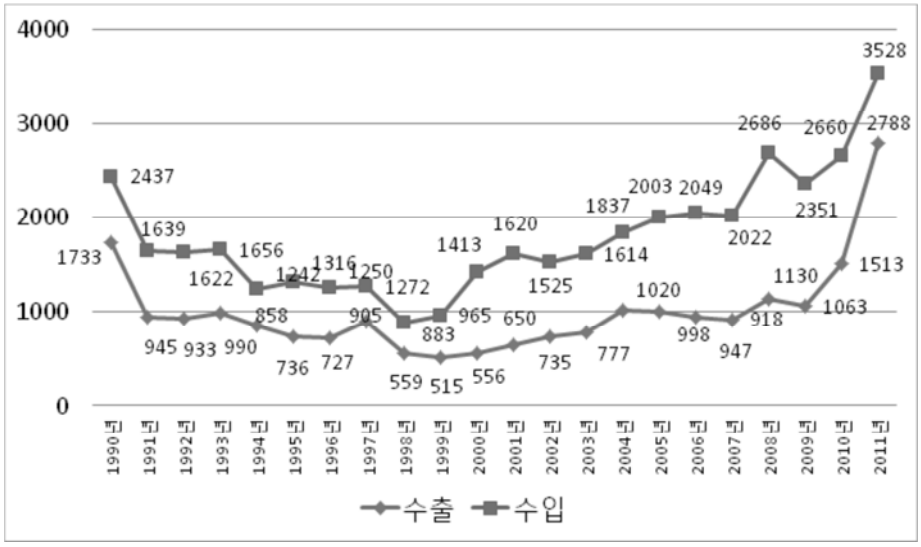
とタイトルを付けた記事で、中国人民軍ナンバー2 で制服組トップである中国共産党中央軍事委員会の徐才厚前副主席が除名処分になったことを報道。
▼7 月 20 日　国防委員会政策局スポークスマン談話、国連安保理の報道談話と関連し「「このような奇怪な茶番劇に一部の定見のない国々も盲従して米国の鼻持ちならない行動に追従しながらわれ先に哀れな境遇に至った朴槿恵を抱いてみようとたわいなく気を使っている」と非難。
▼7 月 24 日　「労働新聞」論説「誰もわれわれの不可避の選択を阻むことはできない」で、中国を名指しにはしなかったが、米国の横暴を黙認していると批判。「悲劇は世界の公正な秩序を立てるのに先頭に立たなければならない国々までが、間違っていることを十分に知りながら自国の利害関係だけを優先視し（米国の横暴を）黙認する態度を取り、米国はさらに横暴になっていることだ」と述べた。
▼7 月 27 日　朝鮮戦争の休戦協定締結日である「戦勝節」では、中国は代表団も送らず、例年はある両国間の宴会の報道もなし。7 月 26 日に平壌で「祖国解放戦争勝利 61 周年慶祝中央報告大会」が開かれたが、「中国」への言及はなし。
▼8 月 10 日　中国の王毅外相、ミヤンマーの首都ネピドーで北朝鮮の李洙墉外相と会談。しかし、北朝鮮メディアはこれを報道せず
▼9 月 8 日　北朝鮮の建国 66 周年（9 日）にあたり、中国は習近平国家主席、李克強首相、張徳江全人代常務委員長が連名で金正恩第 1 書記、金永南最高人民会議常任委員長、朴奉珠首相に祝電を送る。しかし、「継承伝統、面向未来、睦隣友好、加強合作」の 16 文字スローガンは入らず。
▼9 月 30 日　金正恩第 1 書記、金永南最高人民会議常任委員長、朴奉珠首相が連名で中国の国家主導者に祝電を送る。電文は金正恩時代に入って過去 2 回は 6 センテンスだったが 3 センセンスに簡素化
▼10 月 6 日　中朝国交樹立 65 周年にあたり、中朝双方のメディアは 5 年おきには必ず報道していた祝電の交換を報道せず。関連行事の報道もなし
▼10 月 11 日　朝鮮中央放送、党創建記念日の 10 日に中国共産党中央委が朝鮮労働党に花輪を寄せたことを、カンボジア人民党中央委の祝電を紹介する末尾に「付け足し」のように報道

▽「北朝鮮は核兵器を放棄できないが、中国も北朝鮮を放棄できない」
▽「中国にとって北朝鮮はあっても困る国だが、なくても困る国だ」

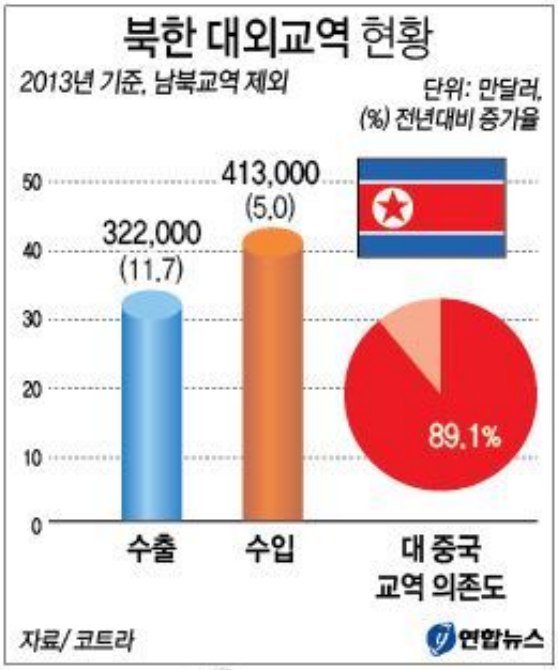
◎中朝の経済関係

▼貿易面での中国依存度の深化＝大韓貿易投資振興公社（ＫＯＴＲＡ）調査で
北朝鮮の 2013 年の対外貿易（韓国との南北貿易を除く）は 73 億 4500 万ドル対前年比７・8%増。北朝鮮の 201２年の対外貿易（同）は 68 億 1100 万ドル（前年 63 億 1600 万ドル）対前年比 7・1%増（同 51・3%増）
※2011 年
○輸出　27 億 8800 万ドル　対前年比 84・2%増
○輸入　35 億 2800 万ドル　対前年比 32・6%増
○貿易収支　7 億 4000 万ドル赤字
※2012 年
○輸出 28 億 8000 万ドル　対前年比 3・%3 増
○輸入 39 億 3100 万ドル　対前年比 10・2%増
○貿易収支　10 億 5200 万ドル赤字
※2013 年
〇輸出 32 億 1800 万ドル　対前年比 11・7%増
〇輸入 41 億 2600 万ドル　対前年比 5・0%増
〇貿易収支　9 億 800 万ドル赤字
（2011 年は対中貿易の伸びで経済制裁にもかかわらず大幅な貿易額の拡大、2012 年は前年ほどの伸びはなかったがそれでもある程度の水準で増加）
▼北朝鮮の年度別輸出入の推移（単位　100 万ドル）

	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年
輸出	918	1,130	1,063	1,513	2,788	2880	3218
輸入	2,022	2,686	2,351	2,660	3,528	3931	4126
合計	2,941	3,816	3,414	4,174	6,316	6811	7345
貿易収支	-1.104	-1,556	-1288	-1147	-740	ー 1052	ー 908



上が北朝鮮の輸入　下が北朝鮮の輸出。一貫して北朝鮮の貿易赤字



▼北朝鮮貿易の対中依存度
輸出入合計額に占める対中貿易の割合
2004 年　48・5%
2005 年　52・6%
2006 年　56・7%
2007 年　67・1%
2008 年　73・0%
2009 年　78・5%
2010 年　83・0%
2011 年　89・1%
2012 年　88・3%
2013 年　89･１%

▼2011 年貿易相手国は①中国 89・1%②ロシア 1・8%③ドイツ 0・9%④インド 0・8%⑤バングラデッシュ 0・7%⑥台湾 0・6%⑦インドネシア 0・6%⑧タイ 0・6%
▼2012 年貿易相手国①中国 88・3%②香港 1・6%③ロシア 1・1%④インド 1・1%⑤タイ 0・9%⑥台湾 0・8%⑦シンガポール 0・7%⑧インドネシア 0・6%
▼2013 年　①中国 89･1%②ロシア１・４%③インド１・３%④タイ 1･3%⑤シンガポール 0・8%

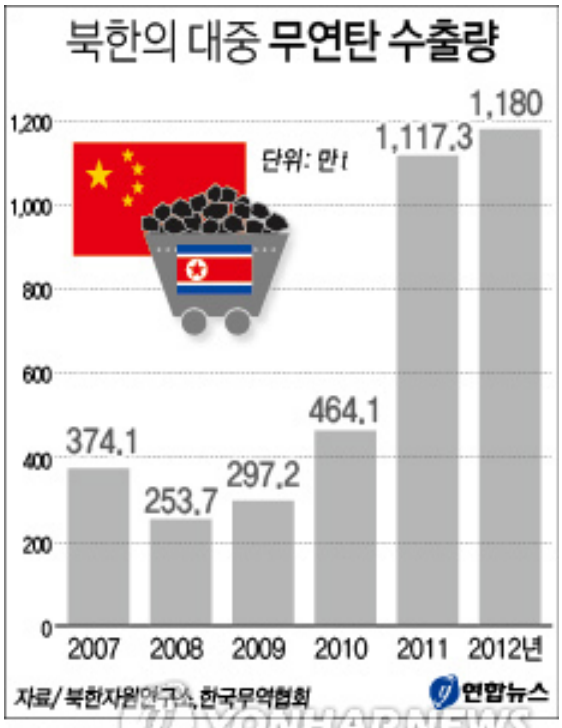
반종빈 기자 20121008
yonhap_graphics@(트위터)

반종빈 기자 20121022
yonhap_graphics@(트위터)

○韓国統一省によると、北朝鮮は対外貿易以外に韓国との南北交易があり、１１年の交易額は１７億１３００万ドル。２０１２年の交易額は、前年比１５％増の約１９億７１１０万ドル（約１８００億円）と、過去最高。

【2013 年中朝貿易】
中朝貿易規模　65 億 5000 万ドルで全体の貿易に占める割合は 89・1%へ上昇
北朝鮮の対中輸出　29 億 1400 万ドル（対前年比 17・3%増）輸出全体の 90･５％
北朝鮮の対中輸入　36 億 3300 万ドル（対前年比 3・0%増）輸入全体の 88%
貿易収支は 7 億 1900 万ドルの赤字
※中国は北朝鮮の 3 回目の核実験などで制裁を強化したが貿易は増加
▼中朝間の重要貿易品目
▽北朝鮮の対中輸出①鉱物性燃料（石炭）・鉱物油　13 億 8900 万ドル（47・7%、対前年比 15･３%増）②衣類、メリヤスなど 4 億 9900 万ドル（17･１%、同 33・9%増）③鉄鋼・鉱滓など 4 億 1530 万ドル（14・3%　＋16・2%）
▽北朝鮮の中国からの輸入①鉱物性燃料・鉱物油 7 億 4060 万ドル（20・４%　－6・3%）②ボイラー・機器類 2 億 6310 万ドル（7･2%、－10・１%）③電気器機、音響、映像設備・部品 2 億 5400 万ドル（7･0%、－4･9%）

이재윤 기자 / 20130401
YONHAP NEWS
@yonhap_graphics(트위터)



강규연 인턴기자 / 20131223
@yonhap_graphics(트위터)